

ともいきに参加して

人間福祉学科4年 矢野 郁美

今回、わたしがこの企画に参加した理由は、ゼミの時、先生から企画の話を聞き、障がいのある子どもと何かできるということに心をひかれたからです。

最初、アジア文化学科と一緒にということで、知らない人たちばかりの中で一緒にできるかどうか不安でしたが、やっていくうちにそんな不安も消えていきました。今まであまり他学科の人と障がい福祉について話すこともありませんでした。福祉を専門的に学んでいる人が考えている障がい観とは違う福祉観を学べたと思います。

ガムランは聴いたこともなかっただし、あまり知らない楽器でしたが、今回初めて聴いてこういう音楽もあるのだと思いました。今回出演した子どもたちとはあまり関わる機会がありませんでしたが、舞台の上で思い思いに音楽を楽しんでいる子どもたちの姿はとても印象的でいいなあと思いました。観客がたくさんいるなかでも動じずに頑張っている姿がいいなあと思いました。出演する子どもたちともうちょっと関わりたかったなど、今では少し後悔されます。

今回、色々な方に見に来ていただきました。その中には、ガムランだけを聴きに来たというだけでなく、障がいのある子どもたちの可能性などを音楽を通じて感じていただけた方もいたようで、「ともいき」という意味を感じてくれて嬉しく思っています。

障がい児・者も関係なく音楽を通して一緒に何かすることを通じて、障がい者や健常者という壁を壊して共に支えあいながら生きていくということを、一人でも多くの方に感じてもらえていたら今回の企画は大成功だと思います。

また、わたしも参加できてよかったです。こういう企画が大学という場から多く生まれてくれればいいなと思っています。

筑女人間福祉学科卒業後、「知的障がい者更生施設」というところで働いています。ここは、知的に障がいのある成人の方が利用されています。その生活指導員をしています。ここでも、地域の人に施設を知ってもらうことや、知的障がいや障がい者を知ってもらうということも一つの取り組みになっています。障がいがあるからできないのでは?とよく言いますが、それはわたしたちが勝手に決めつけているだけで、わたしたちが可能性をつぶしていることになりかねないと今考えさせられています。

